

市では「新聞を教育活動に活用し、情報活用能力などの向上を図るとともに、将来の有権者としての社会的資質の基礎を養う」ことを目的に、市立小・中学校22校に全国紙1紙、地方紙2紙の計3紙を無償で配布しています。

昨年度からタブレット端末を活用し、一部電子版の購読（ハイブリッド式購読）もしています。紙面と電子版、どちらの良さも生かしながら、積極的に新聞を活用している2校の児童・生徒と先生の声を紹介します。

深持小学校



《沢目 未来豊さん（6年）》

タブレットで新聞が読めるようになったことで、いつでも情報を手に入れられてとても便利です。朝学習や休み時間などのちょっとした時間で、知識を身に付けたり、考えを深めたりできます。興味のなかった分野にも目を向けるきっかけにもなります。



朝のタブレット学習の時間を使って電子版を読む児童たち



《中野渡 元さん（6年）》

ぼくたちは、新聞を活用したスピーチ活動に取り組んでいます。記事の内容を分かりやすく伝えるために5W1Hに気を付けています。新聞を活用したスピーチは、世の中のことを知るだけでなく、自分の意見を持つためのよい機会だと思います。



興味を持った記事について、クラスメイトの前でスピーチ

《田代 英俊 先生》

新聞を読むことを習慣付けることで、子どもたちの世界が広がっていくことを実感しています。特に、新聞を活用したスピーチ活動では、社会の一員として自分の意見を持つ姿勢が見られるようになりました。これからも学校生活の中で新聞を活用し、社会とつながる窓としての新聞の価値を実感してほしいと思います。

三本木中学校

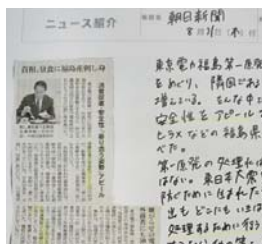


《滝沢 愛依さん（3年）》

私は、広報委員会でニュース紹介という活動を行っています。私たちが選んだ新聞記事とコメントを載せて各教室に掲示したり、記事に対して賛成か反対かアンケートを採ったりしています。この活動で掲示した新聞に興味を持って見てくれる生徒が増えました。



気に入った記事を選び感想を書く授業



委員会活動で作成した記事紹介



《菅原 春音さん（3年）》

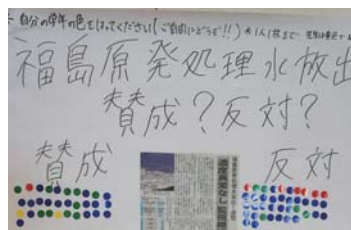
図書委員会では、全校で新聞を読み、記事についての感想を書いたレポートを廊下に掲示し、共有できるようにする活動をしました。同じ記事でも見方によって全く違う感想になったり、こういう見方もあるのかと学べる部分がたくさんありました。



朝の読書時間にタブレットで電子版を読む生徒も

《桜田 ゆかり 先生》

紙面と電子版の2種類の新聞を読むことができ、生徒が新聞に触れる機会が増えました。テレビやインターネットから情報を得ることが多かった生徒が、新聞を通じてそれらのメディアでは取り上げられにくい身近な地域で起きていることに興味を持つようになりました。また、同じ記事に対して個々が違う視点や感想をもつことに面白さを感じている生徒もいます。



記事について賛成か反対かアンケートを校内で掲示